令和２年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人福島大学

１ 全体評価

福島大学は、創立以来、福島の地において、教育、産業、行政等広く各界へ専門的人材を輩出しており、地域に存在感と信頼感のある高等教育機関として果たしてきた使命を踏まえて、平成23年３月の東日本大震災と原発事故以来、被災者・被災地域の支援と復興に関わり、ここからの学びを活かせる唯一の総合大学として、また、新たな地域社会の創造に貢献できる人材育成大学として発展を目指している。第３期中期目標期間においては、①被災地復興への貢献を活かし地域課題に創造的に取り組む人材育成、②地域イノベーションと環境放射能動態に関する国際的研究の拠点、③復興支援の継続と新たな地域社会の創造への貢献を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、新学長プランとして「福島大学ミッション2030」を策定・公表するとともに、福島イノベーション・コースト構想「国際教育研究拠点」への参画についての検討結果を取りまとめるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和２年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　福島イノベーション・コースト構想促進事業（学術研究活動支援事業）について、令和２年度「大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業（重点枠）」として「福島発『復興知』の総合化による食と農の教育研究拠点の構築」が採択されており、福島大学が農業・農学分野で復興を推進する全国の大学等と連携し、食と農、ひいては福島の復興に資する持続的な人材育成のための教育研究拠点の構築を目指し、取組を進めている。その取組の１つとして、復興農学の教育研究拠点として「復興農学会」を設立したほか、被災地の食と農の再生に向けた研究会「福島フォーラム」の開催や高等学校での出前授業を実施している。（ユニット「イノベーション・コースト構想への参画」に関する取組）

○　交換留学生を対象にスタディツアーを実施し、福島の復興の様子・歴史・文化に対する理解を促すとともに、授業科目「Japan Studies」において、世界に福島を発信する事業「Our Fukushima Project」に取り組んでいる。その取組の１つとして、学生がデザインした福島をPRするマスコットキャラクター「Peachiko-chan」のグッズを制作するためのクラウドファンディング事業を実施しており、当初の目標額を上回る寄附を集めている。（ユニット「グローバル人材育成の推進強化」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 外部資金比率（共同研究）の上昇

令和元年度に設置した食農学類において共同研究の受入件数や金額が増加したほか、産業界等との連携体制強化のために設立した「福島大学絆会」のセミナーや交流会において、共同研究等の獲得に向け、福島大学教員の研究成果の発表等を実施したことにより、共同研究収入は第３期中で最高の約5,955万円（対前年度比約2,882万円増）となり、外部資金比率（共同研究）が0.8%に上昇している。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載２事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 「学生ジャーナリスト」による広報活動の強化

学生の視点を取り入れた情報発信方策として、令和２年４月に福島大学の魅力を学内外に広報する「学生ジャーナリスト（通称：GJ）」の企画をスタートしている。26名の学生から応募があり、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での活動が難しい中、Zoomを用いた中学生向けの動画を制作し、中学生の大学訪問時に披露したほか、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の１つとして、学生・教職員向けの構内放送の原稿作成、音声収録、構内放送等の活動を行っている。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載３事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 福島イノベーション・コースト構想の推進

「大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業（「復興知」事業)」として、復興に関する知恵と知識（復興知）を集積することにより、国内外の様々な自然災害や人的災害で傷ついた地域とその農林水産業の復興を支援するため、福島大学を中心に「復興農学会」を令和２年６月に発足している。同学会は、福島大学のほか複数の大学・高等専門学校が参加しているが、大学等の研究者だけではなく、農業生産者、自治体や企業・団体、一般市民が会員として参画することにより、「復興知」事業等の成果を生かした地域への実装・還元、福島県浜通り地域の農業の復興が期待される。